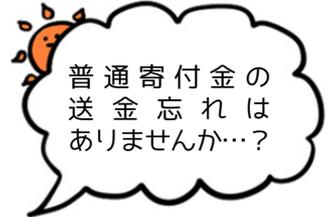




ハイライトよねやま 170

1 寄付金速報 — 残り2カ月もよろしくお願いします —

4月までの寄付金は前年同期と比べ3.5%増、約3,900万円の増加です。普通寄付金は前年とほぼ同額ですが、特別寄付金が5.3%増となりました。大口の法人寄付をいただいたこともあり、4月単月の寄付金、4月までの累計金額ともにこの5年間で最高額となり、今年度の寄付金は好調に推移しています。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。今年度も残すところ2カ月弱となりました。普通寄付金をまだお送りいただいていないクラブがありましたら、お早めにご送金賜りますようよろしくお願い申し上げます。



2 博士号取得状況 — 奨学期間が終わっても申請可 —

今年も卒業式を終えた学友から、博士の学位を取得したとの報告が届いています。2013学年度(2013年4月～2014年3月)に博士号を取得した奨学生・学友は38人、累計では3,430人です(5月8日現在)。博士号取得者には、米山記念奨学会からお祝いの腕時計(裏に氏名の刻印あり)を世話クラブ経由でお贈りしています。すでに奨学期間を終了した学友も申請できますので、事務局まで報告をお願いします。※発送は国内のみ



申請方法 「学位記の写し」か「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へ FAX またはメールでお送りください。(FAX: 03-3578-8281/メール: scholars@rotary-yoneyama.or.jp)

3 春の叙勲 — 台湾の学友が旭日中綬章 —

平成26年春の外国人叙勲で、台湾で“エビ養殖の父”として知られる米山学友、廖一久さん(1965-68/田原RC)が、旭日中綬章を受章されました。廖さんは日本留学中、東京大学で水産学を研究し、帰国後は台湾の水産試験所の研究員として、世界に先駆けてブラックタイガーエビの養殖を成功させるなど、台湾のみならず世界の養殖業に多大な影響を与えました。2012年には世界水産養殖同盟(Global Aquaculture Alliance)によるGOAL(Global Outlook for Aquaculture Leadership) 2012大会で終身功績賞を受賞、また、2009年には台湾で最も権威のある科学賞、第5回総統科学賞を受賞しています。



< 廖一久さんからの喜びのコメント >

4月29日、岸田文雄外務大臣より「旭日中綬章」を授与いたす旨の祝電を頂きました。身にあまる、望外な名誉で恐縮しております。私が長年研究して参りました魚介類、とりわけエビ類の養殖技術開発研究とその学術交流が、日台間の関係に貢献したことが評価されて今回の受章となりました。これは皆様から頂いたご支援とご鞭撻、特に、私の留学生時代に頂きました米山奨学金に負うところが大変大きいと思います。心より厚く感謝致します。今回の叙勲の名誉を汚すことのないように、心を引き締めて精進する所存です。

4

埼玉・川越駅前に米山学友の彫刻作品が設置されました



韓国出身の米山学友、キムキョンミンさん（2007-08／東京多摩グリーンRC）の彫刻作品が、今年2月から埼玉県・川越駅西口広場に設置されています。「時間のハーモニー」と題されたこの作品は、2012年第5回小江戸川越トリエンナーレ・彫刻部で大賞を受賞したものです。川越駅西口広場の再開発とともに設置され、長く親しまれてきた噴水に代わる新しいモニュメントとして、市民の待ち合わせや憩いの場となっています。キムさんは現役奨学生の際に、第92回二科展彫刻部で二科賞に輝いたことがあり、今後ますますの活躍が期待されます。川越を訪れる際には、ぜひキムさんの作品をご覧ください。

5

中学校で「国際交流」の講演 — エソダ・バスネットさん —

第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）米山学友会会長を務めるエソダ・バスネットさん（ネパール／2011-12／横浜戸塚RC）が4月28日、綾瀬市立陵北中学校（神奈川県）で「国際交流」をテーマとする講演を行いました。ネパールの民族衣装に身を包んだエソダさんは、全校生徒約700人に向けて、母国ネパールの紹介をはじめ、自身の日本留学体験や国際理解の重要性について語りました。



700人もの生徒さん達の前で話すのは初めての経験でしたが、皆さん、大変興味深く話を聞いてくれて、質問やコメントもしてくれたおかげで、充実した時間を過ごすことができました。今後も米山学友の誇りをもって、日本で学んだ知識や経験、語学力とロータリー関係のネットワークを活かしながら、ネパールと日本の懸け橋であり続けたいと思います。

6

今年も大活躍！台湾学友会が美化活動に協力

4月19～20日、台北市内で開催された台湾美化協会（台湾を美しくする会）の第12回年次大会に、台湾米山学友会メンバーやその家族、台湾学友会が支援する日本人奨学生ら15人が参加しました。同協会は、米山学友の徐重仁さんが、日本のNPO法人「日本を美しくする会」の活動に感銘を受けて2003年に創立したもので、年次大会には毎年、日本人も多数参加します。台湾学友会の参加は2007年からで、今年で8回目。米山学友は、清掃活動や日台参加者の交流を深める懇親会の通訳ボランティアなどを務め、橋渡し役として貢献しました。



台湾米山学友会の林維宏理事長は、「今年の学友会テーマ“恩恵の倍返し”に基づき、日台交流の盛大な行事の一つ、台湾美化協会年次大会の成功を今年もサポートすることができ、大変うれしい」と語りました。また、長年“縁の下の力持ち”として学友会を支える元理事長の阮允恭さんも、「『きれいな群、清潔の心』。これを実践することによって、社会に対する利他の精神が磨かれます。参加の機会を頂いて、本当に感謝です」と、充実感に満ちた感想を寄せてくれました。